

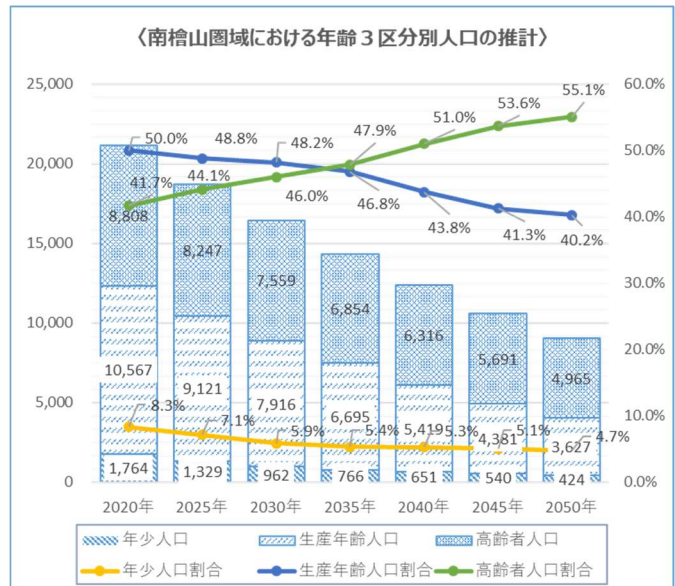
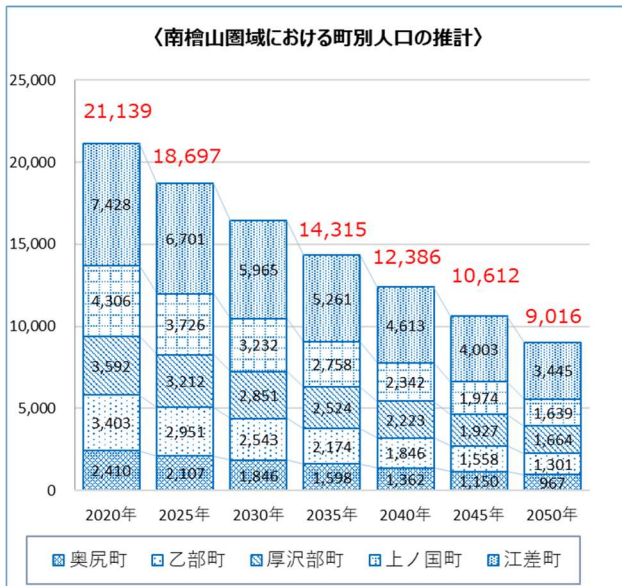
2 医療圏について

- (二次)医療圏とは、国が「医療法」という法律に基づいて、医療機関がどのくらい必要かなどを定めるために設けている圏域のことを言います。
- 医療圏は、一次から三次まであり、一次医療圏は市町村単位、三次医療圏は都道府県単位となっています。(北海道だけは例外で道内に6つの三次医療圏があります。)
- **江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町の5町で構成される「南檜山医療圏」**は、道内にある「21」の二次医療圏のうち、「**最も人口の少ない圏域**」となっています。

順位	圏域名	国勢調査人口 (2020年)
1	札幌(札幌市北区など)	2,396,732
2	上川中部(旭川市など)	381,296
3	南渡島(函館市など)	359,223
⋮	⋮	⋮
19	北渡島檜山(八雲町など)	33,405
20	北空知(深川市など)	29,694
21	南檜山	21,139
	北海道合計	5,224,614

3 南檜山医療圏の現状等① (人口推移と医療)

- 南檜山医療圏では、各町とも人口が減少傾向。特に、生産年齢人口(15~64歳)が急激に減少し、2035年には高齢者人口(65歳以上)と割合が逆転すると見込まれている。
- 各医療機関においては、担い手不足に伴い、医師や看護師等の医療従事者の確保が非常に困難となっている。



(出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」)

4 南檜山医療圏の現状等②（受療動向等）

- 南檜山医療圏では、入院して検査や治療を受ける（受療）にあたり、圏域内で受療される患者の割合は15.7%となっているのに対し、函館市など南渡島圏域で受療される患者の割合が77.46%にのぼっています。
- 公立の病院や診療所の病床については、いずれも許可を受けている数に対して、現在休床しているものがみられ、患者数の減少と相まって病床利用率も低くなっています。病院等の経営や限られた医療人材の活用という観点では、決して効率的とは言えない状況となっています。
- 公立病院等においては、年間で約19億円の公的資金が投入されている（令和4年度）ほか、民間医療機関においても、厳しい経営環境が続いています。

■ 公的病院・診療所の状況

圏域	南檜山	南渡島	札幌	その他
南檜山	15.70%	77.46%	5.05%	1.79%

（出典：北海道保健福祉部委託「医療データ分析センター事業」（令和4年度国保レセプトを用いた患者の受療動向））

■ 患者の受療動向（流出）

	令和5年度病床数（床）			主な職員の人数〔常勤換算〕		病床利用率（%）
	許可病床	うち休床	稼働病床	医師数（人）	看護師・准看護師数（人）	
道立江差病院	146	38	108	14.65	76	52.5
厚沢部国保病院	69	24	45	3	17	30.5
乙部国保病院	62	4	58	1	19	31.0
奥尻国保病院	40	0	40	2	21	66.8
上ノ国診療所	19	19	0	1	5	-
石崎診療所	19	19	0	1	2	-

（出典：病床数、職員数～厚生労働省、北海道江差保健所「令和5年度病床機能報告」（令和5年7月1日時点）
病床利用率～総務省「地方公営企業年鑑 病院事業」（令和3年度））